

成果の説明書

(氏名) 中村 彰良	(学部) 経済学部
1 重要事項 研究 昨年度、分析するためのテキストデータを効率よく収集するために、スクレイピングという手法を習得するよう試みた。今年度に入って、JavaScript を使ったページのスクレイピングも一部出来るようになった。テキストデータをある程度収集することが可能となったので、実際にテキストデータを用いた分析を始めることを検討した。具体的には、各企業について様々な人が投稿する掲示板の情報に、その企業の財務的な業績の予測情報が含まれている可能性があるのではないかと考えているので、それについて分析してみることにした。ただ各企業についての掲示板への投稿数は、企業によってさまざまであり、ほとんど投稿されていない企業も存在する。時価総額が上位の企業については、ある程度投稿数が多いので、現在、時価総額が上位の企業について、掲示板に投稿されたテキストデータを定期的に収集している。現在はテキストデータを収集している段階で、まだそのデータを用いた分析を行う段階には至っていない。 教育 簿記論については、簿記検定の出題範囲が頻繁に見直されている。必ずしも簿記検定に合わせる必要はないところもあるが、合わせた方がよいと思われるところについては教える内容や使用するプリントについて見直しを行った。 管理会計論については、授業で配布するプリントについて若干の見直しを行った。また、前年度に遠隔授業で用いたテキストファイルを Teams で見られるようにした。 また、4年生の提出したゼミ論文に目を通した。	
2 その他の事項 高崎経済大学経済学会監事として監査を行った。 日本会計研究学会全国大会（Web 開催）に参加した。	
3 次年度以降の計画・抱負 研究面では、現在収集しているネット上のテキストデータを用いた分析を行いたいと考えている。 教育面では、簿記検定にどこまで合わせていくのが望ましいのか検討したいと考えている。	